

視察報告

先進地に学ぶ

経済建設常任委員会は、7月7日から3日間、福岡県・大分県の3カ所を行政視察しました。

「大木町もったいない宣言」

おおき循環センター「くるるん」

福岡県大木町は、“生ゴミは資源”という考えのもとに、資源循環型まちづくりを推進している。

循環センターの建設費は、一般の焼却施設の3分の1である。現在は燃えるごみを4割に減らすなど、リサイクル率は6割超となっている。

本町も豊かな自然を守るために、この取り組みを活用できないか、大いに検討してみたいと感じた。



グリーンツーリズムの先進地

あまがせ
天瀬農業公園

大分県日田市にある、バラの観賞ガラスハウスと貸し農園を中心にした交流型複合施設である。宿泊ログハウスもあり、滞在型交流人口をふやしている。本町も推進しているが、経営面の課題なども参考になった。



農業公園の全体図

究極の「おもてなし」

湯布院温泉



市職員から説明を受ける

大分県由布市は、人口3万人余りの市に毎年400万人の観光客が訪れる。滞在型温泉保養地をめざし、すべての旅館で地域一体型の「おもてなし」に取り組んでいる。風俗店をなくしたり、博物館を設置したりして、女性客を増やしている。また、畜産農家と観光業者がタイアップした「牛喰い絶叫大会」など、農商連携をはかりながら、交流人口の増加につなげている。

地域全体で行うまちづくりを本町も参考にしたい。